

会 議 録

1 会議名

令和3年度 第2回金谷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

（1）令和4年度地域活動支援事業について（公開）

3 開催日時

令和4年5月25日（水） 午後5時30分から午後8時42分まで

4 開催場所

福祉交流プラザ 第1会議室

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：村田敏昭（会長）、川住健作（副会長）、山井広子（副会長）

石川美恵子、大瀧幸治、神崎 淑、小林雅史、高橋敏光

高橋 誠、高宮宏一、長 和子、土屋博幸、平良木美佐江、益田侑季

（欠席2人）

・事務局：南部まちづくりセンター 滝澤センター長、小池係長、難波主任

8 発言の内容

【難波主任】

・加藤委員、山本委員を除く14人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

・同条例第8条第1項の規定により、議長は会長が務めることを報告。

【村田会長】

・会議の開会を宣言

・会議録の確認：神崎委員と益田委員に依頼

次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【滝澤センター長】

- ・配布資料の確認
- ・次第に基づき、議題の確認

【村田会長】

- ・「議題等の確認」について質疑等を求めるがなし。

— 次第3 議題（1）令和4年度地域活動支援事業について —

【村田会長】

次第3 議題（1）「令和4年度地域活動支援事業について」に入る。

本日は、今年度、提案があった全14事業のうち11事業について、提案者からの事業説明と質疑応答の後、審査・採点を実施する。

なお、事業の採択・補助金額等の決定は、明日行う。

正副会長は審査に加わるため、事務局が会の進行を行う。

【滝澤センター長】

- ・金谷区予算配分枠：850万円
- ・提案事業：14件
- ・補助希望額合計：430万4千円（予算配分額に対して419万6千円剰余）
- ・追加募集は行わない。
- ・審査の流れは1事業につき、事業説明5分以内、質疑応答10分以内、審査と採点2分以内で行う。

事務局の説明について、質疑を求めるがなし。

審査・採点を始める。

整理No.1「滝寺自然公園整備と環境保全・保護活動事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

- ・事業提案書に基づき説明

【滝澤センター長】

提案者の説明について、質問のある委員の発言を求める。

【平良木委員】

二点質問する。

一点目、「(2) 事業の目的及び期待する効果」についてである。1番下に、「広報活動をとおり、町内外に滝寺の魅力を発信」とあるが、どのような範囲・方法で発信するのか、教えてほしい。

二点目、「(4) 事業の内容及び実施方法」の最後に、「外部参加者募集を働きかける」とあるが、これは何の活動への参加者を指しているのか。

【提案者】

広報活動については、まちづくり活動通信「やまぼうし」を発行している。

外部の人も来てほしいが、まず住民自体が少ない状態である。今はまだ、外部に対して募集をかけて保険まで入るようなかたちはとっていない。

将来的にも、たくさんの人に参加してほしいが、まずは町内からの参加人員が必要だと思い、広報を出すたびに、「会員募集」、「どんな作業にも参加できる」と記載している。

仕事の内容については、機械を使用するような作業はベテランの人もいるため、そういう人に行ってもらっている。例えば、側道を刈った場合の集草、つまり側道に出ている草を綺麗にしている。また細かい刈り残しがあった時の刈り取りをしている。

とりあえず、来てもらえれば、何とでもするとのかたちで行っている。

この2、3年は、なかなか外部の人は来ていない。以前には、広報を見たため来たという人もいたのだが、今はそういったことはない。

まずは住民の参加意欲を高めたいと考えている。

【平良木委員】

今年度については、特に外部の人には働きかけない。広報については「やまぼうし」を活用するということがよいか。

【提案者】

そうである。

【石川委員】

「栽培キノコを活用した試食会」に80人を予定しており、毎回行っているようだが、今までに何人くらいの参加があったのか。

【提案者】

昨年度は80人の参加者がいた。

今は場所も変えたが、今までは少し離れた本村で行っていたため、団地の人は歩いて来るには遠かった。まちづくりの活動には団地の人に関わりのある人が多い。子ども連れでの参加者もいた。

今までは50人くらいしか集まらなかったが、コロナ禍になり、遠くまで行くことが大変だということで、近場で行うようにしたら集まるようになった。

【石川委員】

試食会に参加した人は、手伝いにも来ているのか。

【提案者】

実際は、「キノコを活用した試食会」といっても、キノコだけではない。総会を兼ねて行っている。飲食代は含まれていないが、もちろん飲食をしている。

ただ近年、車座になってどうということではなく、私たちがかまどを三つほど炊き、餅つきも行っているため、和気あいあいと慰労会のようなかたちで考えている。

予算的には飲食分は含まずに、材料費と小間代を計上している。

近所の女性たちもいるため、食材の仕込み等は手伝ってもらっている。

私たちが火をおこして、その際の薪も自分たちで伐採した木材で作っている。その火を使って、釜戸でご飯を炊き、餅つきや豚汁を作って和気あいあいと一日過ごしている。

【滝澤センター長】

他に質問等を求めるがなし。

質疑を終了する。

— 提案者退席 —

整理No.1の事業について、審査・採点を委員に依頼。

— 審査・採点シート 記入・回収 —

整理No.1「滝寺自然公園整備と環境保全・保護活動事業」の審査・採点を終了。

整理No.2「正善寺ダム周辺の紫陽花の維持管理及び水質保全と環境美化事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

- ・事業提案書に基づき説明

【滝澤センター長】

提案者の説明について、質問のある委員の発言を求める。

【平良木委員】

直接、関係のないような質問になってしまうが、市が整備を止めたところを、地域住民がボランティアで始めたとの説明を聞き、本当にありがたいことだと思った。上越市にとっては大事な観光スポットであるため、本当に地域の人たちのおかげだと思っている。

今後、地域活動支援事業がなくなった場合、今後の活動経費等、どのように考えているか。

【提案者】

下正善寺からダムの管理棟までの間は県道、その先は市道となっている。

現在、県道は各町内が行っており、ダムから先は当団体が行っている。メンバーは若い人で60歳くらいであるため、あと10年くらいは活動できると思っている。その後はどうなるかまだ分からない。

【平良木委員】

経費面については、何か考えはあるか。

【提案者】

最初の頃は皆、費用持ち出しで活動していた。田畑も減ってきているが、自前で行いたいと現段階では考えている。それもできなくなった際はどうなるのか分からない。

事業も縮小して、草刈り程度になるのではないかとは思っている。

【小林委員】

雪解けの後、4月に不法投棄の回収をしているとのことだが、これは個別に上越市等に連絡をして、軽トラック3台分は行政で回収に来てくれるのか。

【提案者】

後日、集めたものを公民館脇に積んでビニールシートをかけ、上越市にお願いをして回収してもらっている。

【小林委員】

大体、例年、5月に全市一斉クリーン活動があると思うが、その際にも同じような路線を町の住民で清掃活動等、行っているのか。

【提案者】

当団体で行っているのは、春先の一回だけである。あとは、草刈りやライトアップの準備・撤収の際に不法投棄等があれば、その都度、回収している。

その際のゴミは、市に直接頼むのではなく、分別できるものは分別をして、町内の収集箱に出して回収いただいている。

【滝澤センター長】

他に質問等を求めるがなし。

質疑を終了する。

— 提案者退席 —

整理No.2の事業について、審査・採点を委員に依頼。

— 審査・採点シート 記入・回収 —

整理No.2「正善寺ダム周辺のアジサイの維持管理及び、水質保全と環境美化事業」の審査・採点を終了。

整理No.5「毘沙門天案内看板及び滝寺砦周辺の整備並びに古道の整備事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

・事業提案書に基づき説明

【滝澤センター長】

提案者の説明について、質問のある委員の発言を求める。

【高橋敏光委員】

毘沙門の本体が二体あると記載されているが、一体は棟にある桐の箱にしまっており、30年に一度の御開帳の際に何度か見ているため知っている。もう一体は上越市の指定文化財となっているのか。

【提案者】

まだ文化財にはなっていない。

木造の毘沙門であるため、毘沙門堂の中に常時安置されている。

【高橋敏光委員】

それを合わせて二体ということか。

【提案者】

木製の毘沙門天と、青銅製の毘沙門天の二体ある。

【高橋 敏光委員】

本堂の方にも入っているのか。

【提案者】

そうである。

お堂をお参りに行くと、神様はきちんと中いることが確認できる。

【平良木委員】

9月に講演会を計画しているが、どのくらいの規模でどのような人たちを対象としているのか。

【提案者】

上越市の「狼煙上げ」の会長に講演していただく予定であり、新型コロナウイルスの関係もあるため、20人から25人くらいを目安に考えている。

一般の人といっても、町内会の中の人に募集をかけようと考えている。

【滝澤センター長】

他に質問等を求めるがなし。

質疑を終了する。

— 提案者退席 —

整理No.5の事業について、審査・採点を委員に依頼。

— 審査・採点シート 記入・回収 —

整理No.5「毘沙門天案内看板及び滝寺砦周辺の整備並びに古道の整備事業」の審査・採点を終了。

整理No.6「ミニ新聞「まめでやったけえ」発行継続及び冊子増刷・活用によるきずな拡大事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

- ・事業概要に基づき説明

【滝澤センター長】

提案者の説明について、質問のある委員の発言を求める。

【小林委員】

質問ではなく、応援である。

「木と遊ぶ研究所」では世話になった。あれから20年ほど経過しているが、あ
のときのメンバーがこのように活動してくれているということがすごく嬉しい。

これを核として、まだまだ発展できることがたくさんあると思うため、かみえち
ご山里ファン倶楽部の知恵でもっと盛り上げていってほしいと思う。

【滝澤センター長】

他に質問等を求めるがなし。

質疑を終了する。

— 提案者退席 —

整理No.6の事業について、審査・採点を委員に依頼。

— 審査・採点シート 記入・回収 —

整理No.6「ミニ新聞「まめでやったけえ」発行継続及び冊子増刷・活用によるき
ずな拡大事業」の審査・採点を終了。

整理No.7「金谷区（灰塚駐在所管内）の交通安全確保事業」について、提案者に
説明を求める。

【提案者】

- ・事業概要に基づき説明

【滝澤センター長】

提案者の説明について、質問のある委員の発言を求める。

【石川委員】

支部長は毎回のように申請をされ、とても一生懸命であり感心する。

質問というわけではないが、毎回申請をされ、カーブミラーや白線、旗等、いろいろなことをしてきたが、その結果を支部長から見て、町内の人たちの交通安全に関する意識は随分上がったと思うか。

【提案者】

素晴らしい指摘だと思う。

税金をかけて、交通安全の施設、カーブミラーもしかりだが、防犯チョッキ・帽子等、いろいろな面で地域協議会にはお世話になっている。

私たちが毎年、春と秋の全国交通安全運動週間には立哨している。

灰塚支部は13町内で組織されている。年に3回、県と上越市の交通安全協会からのチラシも配布している。また、総会の資料も13町内に回覧している。部数としては、回覧数で140班程度である。それにより、1,000世帯ほどの住民が皆、ある程度は読まれており、理解してくれていると思っている。

【土屋委員】

質問ではなく、確認である。

提案書の「(4) 事業の内容及び実施方法」のところに「カーブミラー設置」と記載されているため、今回、地域活動支援事業に申請してきたかと思う。

その項目内に「一時止まれ足型マークの設置」とあり、「交差点部歩道に一時止まれ足型マークを路面用カラスプレーでマーキングすることにより、歩行者の一層の安全確保を図る」と記載されているが、これは地域活動支援事業に申請はしないのか。

【提案者】

足型マークについて、当団体が申請しているのは材料のスプレーである。足型の鉄板については、以前に引き継ぎで譲り受けているため、それにスプレーでかけるだけである。材料であるスプレーも、地域協議会からご理解をいただいて、4、5年前に大量に購入させていただいた。

また、正式な白線や止まれマークについては、県の警察の公安の管轄であるため、

当団体では申請しない。公安に依頼するかたちである。

足型マークの設置に必要なスプレーも今は在庫があるため、今回は申請していない。

【村田会長】

中田原地内の既存のカーブミラーは、当時、どの所管で設置したのか。

【提案者】

それは上越市である。

イーグルゴルフセンター前の団地には何本も出入口がある。その中は皆、二対のカーブミラーが設置されているが、そこだけはなぜかシングルのものとなっている。

私も確認したが、右側方向の高田商業高校から寺町1丁目に向かう側が付いていない。そこには人家もあり、将来的には有沢製作所等が何か作る予定もあるようなので、危険だとのことで町内会長から依頼、要請があった。

【村田会長】

上越市に「もう一方の面も付けてほしい」と地元から要望が出され、市としては予算もないため別で検討してほしい、といった手続きを踏んだのか。

【提案者】

そこまでは確認していない。

私もこの席で何度も答弁をしているが、上越市として新しく設置するところは、合併した14市町村の中で、年間7、8か所くらいしかない。

町内会長が市に申請したのかは分からないが、おそらく却下される可能性が大きい。そのため、当団体に依頼してきた。

【滝澤センター長】

他に質問等を求めるがなし。

質疑を終了する。

— 提案者退席 —

整理No.7の事業について、審査・採点を委員に依頼。

— 審査・採点シート 記入・回収 —

整理No.7「金谷区（灰塚駐在所管内）の交通安全確保事業」の審査・採点を終了。

整理No.8「平山で花&夢いっぱい咲かせよう運動事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

- ・事業概要に基づき説明

【滝澤センター長】

提案者の説明について、質問のある委員の発言を求める。

【石川委員】

毎日のように花壇を見ているが、いつもきれいにさせていただき感謝している。

毎回、春植えや秋植えの苗や球根を一年草で購入して、植えているのか。

【提案者】

そうである。

【石川委員】

申請が通ればよいが、少し向こうのナルスの前に、個人で多年草をたくさんきれいに植えている人がいる。

今後、多年草を植えるような考えはあるか。

【提案者】

発言にあった場所には芝桜等が植えられており、きれいになっている。当団体では、チューリップ等の球根を毎年購入して春に咲かせ、その後、球根を取って秋に高田西小学校や関根学園高校に老人会から寄付している。毎年、球根のリクエストがあるため、チューリップ等を植えている。

球根を取った後は、一年草の花を植え、その後、草花を取って再び球根を秋に植えるローテーションで回している。

ただ、結構大変であるため、多年草の話題が会員から出ることはある。

【石川委員】

苗に係る費用もなかなか大変だと思うため、ぜひ検討してほしいと思う。

【高橋敏光委員】

市が緑の募金を行っており、各町内の老人会が花を植える際、昔は市から無料で苗を貰っていた。だが、4、5年前から苗がもらえなくなってしまった。

これまでも花を植えていたと思うが、私の町内では予算を老人会に渡し、老人会の方が花を植えている。

花の苗代は提案してもよいと思うが、提案書に「草刈機費」とある。

【提案者】

草刈機費については、上越市からの補助は考えていない。

補助を希望しているのは、草・花・球根・土の予算である。

活動費には草刈機も計上しているが、それは、町内で購入しようと考えている。

【高橋敏光委員】

記載されている回転刃も同様か。

【提案者】

同様に町内会での負担で考えている。

予算として15万円を計上しているが、上越市からの補助を希望しているのは、苗・球根・土・肥料である。

【高橋敏光委員】

これまでは苗等の購入はどうしていたのか。

【提案者】

昨年度も肥料・土・球根・草花を上越市から補助いただいております、それ以外の費用に関しては、町内で賄っている。

【高橋敏光委員】

来年度から地域活動支援事業がなくなるが、来年度からは町内で予算を賄うことになるのか。

【提案者】

予算はこれまでも町内会に計上しているため、採択されなくても運営はできる。

【高橋敏光委員】

補助金がなくなっても、花壇は続けるということか。

【提案者】

続けるはずである。

【高橋敏光委員】

ぜひ続けてほしい。

私の町内会にも町内会館前に広い面積があり、本当に苗や肥料の代金は大変である。金額としては、町内会で相当、負担している。

【平良木委員】

この事業は花をきれいに咲かせるだけではなく、町内のコミュニケーションを図る、子どもたちのやさしい心を育てる、という点で素晴らしいと思う。

昨年、子どもたちへの参加の呼びかけについて質問をした際、「子どもたちも一緒に連れてきてほしい」と声掛けを行うとのことであったが、昨年は何人くらいの子どもの参加があったのか。また今年度は、他にどのような呼びかけの仕方を考えているのか。

【提案者】

昨年は、実働で10人くらいの参加があったと思う。

今年度については、既に3回、参加していただく機会があり、合計60人ほどの参加があった。そのうち子どもの参加は1人であった。

朝も早く6時から行うため、子どもたちの参加はまだ少ない感じはする。

【滝澤センター長】

他に質問等を求めるがなし。

質疑を終了する。

— 提案者退席 —

整理No.8の事業について、審査・採点を委員に依頼。

— 審査・採点シート 記入・回収 —

整理No.8「平山で花&夢いっぱい咲かせよう運動事業」の審査・採点を終了。

— 休憩 —

【滝澤センター長】

会議を再開する。

整理No.9『金谷山とレルヒ』～レルヒ少佐と心かよわせた仲間たち～事業」につ

いて、提案者に説明を求める。

【提案者】

- ・ 事業概要に基づき説明

【滝澤センター長】

提案者の説明について、質問のある委員の発言を求める。

【山井副会長】

失礼ながら、提案書に出てくる人たちの名前を聞いたことがない。

次に、団体の代表は長年、大貫に住んでいるのか。そして、レルヒ少佐については、以前から研究していたのか。

設立年月は「令和4年度4月」となっているため、経緯等も聞かせてほしい。

【提案者】

委員は知っていると思うが、私は廃校になった大貫小学校の出身である。

小さい頃から金谷山でスキーの指導を受け、放課後は走らされていた。

金谷山というと、中学校はスキー授業、高校でもスキー授業という感じであった。ランディングバーンでラージメドレー・ランディングがあり、そこで滑っていた。本当に金谷地区にどっぷりと浸かっていた。

昔は、レルヒ祭は今のようなかたちではなく、4町内が合同で味噌汁を作る等していた。そういったことをきちんと理解している者である。

これまでに長年、金谷山を見てきて、最近は雪の状況等、さまざまな厳しい状況がある。そのため、ここでレルヒ少佐を紹介するとともに、その周辺を紹介して「スキー発祥の地」とはどういうことなのかということをよく理解してほしいと思っている。

そういった意味で、文章だけではなく、1911年から今日までのスキーを紹介する、当時の風景を紹介する等、行いたいと思っている。

また、当時、レルヒ少佐を支えた人、つまり、掘内文次郎ら14人に指導したわけだが、その後、民間の人が教えるようになり、そういうところも新聞記事も入れながら紹介したいと考えている。

私は、大貫小学校の出身として、当時のスキーについて紹介していきたいと思っ

ている。

【平良木委員】

少し見ただけでも大変に興味深い内容であり、貴重な資料を見ることができるため、大変楽しみにしている。

冊子を作るということだが、解説をする会というか、講話会といったことは予定していないのか。

【提案者】

質問を聞き、そういうことも必要なのかと気づいた。

現時点では講話会等の予定はなく、冊子を配布することで紹介することとしようと思っていたが、要望があれば、説明する機会を設けたいと思う。

【石川委員】

提案書に「リリエンフェルト市姉妹都市提携40周年記念事業、日墾友好150周年記念事業などを推進した上越市」との記載があるが、そのような事業があったということは、これまでもレルヒ少佐に関する冊子が作られていたように思うが、そういうものとの大きな違いは何があるのか。

次に冊子はよいが、提案書に記載のあるモニュメントは個人的にあまり気に入らない。

以前、飯山に行った際、大きな看板に「日本スキー発祥の地」とあった。驚いて思わず立ち寄って看板を読んだところ、レルヒ少佐から指導を受けた人が飯山にいて、その人がスキーを指導し始めたとあった。だが看板には「日本スキー発祥の地」とあったため、本当に驚いた。だが、本当の発祥の地である所にはおかしいと思う。

冊子もよいが、人目によくつく物も考えてはどうかと思った。

【提案者】

先ほどの話に出た堀内文次郎が長野県出身である。

レルヒ少佐が14人に指導し、その中に堀内文次郎が委員長としていた。そしてスキー講習会があって、そこで習った人たちが全国に散るわけである。その中の一人のことを指した看板があったということだと思う。

スキー発祥地については、論争があった。長野県や北海道からも声が上がっていた。しかし、最終的に全日本のスキー連盟会長が、初めてきちんと体系的・系統的に教えた場所は高田だと結論を出した。それは既に決着がついていることである。

このような論争のあった名残だと思う。

【石川委員】

歴史は忘れられていくが、110年も経っている。そろそろ忘れそうな現代で、どういう思いでこれを作成されるのか。金谷山の麓で育ってこられたということだが、これからの子どもたち等に、この冊子を出すことによって、どれぐらいの効果を考えているか。

【提案者】

やはり、何もしなければ、さらに忘れられていってしまう。そのため、少しでもスキーをしている姿や、最近はスノーボード等もあるが、「こういう時代もあった」ということを、視覚的に感じてほしいと考えている。また、堀内文次郎という委員長も「こんな人だった」ということを知ってもらいたいという思いである。

【小林委員】

代表は、「レルヒの会」の中心人物だと思うが、あえてレルヒの会ではなく、この10人で新しい会を立ち上げた理由は何かあるのか。

【提案者】

昔、地元の仲間とも活動していたが、ほとんどこちらに関わることはなくなったということが一つ。

【滝澤センター長】

時間となったため質疑を終了する。

— 提案者退席 —

整理No.9の事業について、審査・採点を委員に依頼。

— 審査・採点シート 記入・回収 —

整理No.9『金谷山とレルヒ』～レルヒ少佐と心かよわせた仲間たち～事業の審査・採点を終了。

整理No.10「バレーボール文化の普及及び青少年健全育成事業」について、提案

者に説明を求める。

【提案者】

- ・ 事業概要に基づき説明

【滝澤センター長】

提案者の説明について、質問のある委員の発言を求める。

【小林委員】

子どもたちの活動には、できるだけ協力したいという気持ちは前提としてある。

来年度以降、地域活動支援事業がなくなった場合、バレーボールに限らず、野球等、他のスポーツでも同じような申請をしている団体には、今後どうするのかという心配がある。

団体がこれまでに関わってきた中で、上越市のバレーボール協会や体育協会等、今後、このような組織が子どもたちの支援として、どのように取り組んでいくべきか、何か持論等あるか。

【提案者】

中学校の部活動についても、来年以降、縮小傾向になることが決まっている。

部活動から一般社会体育に移行していくにあたって、やはり事業化を図っていかなければならないと思っている。

現在、当団体では年間1万5,000円の会費で何とか運営をしているが、到底足りないのが現状である。

そのため、まずは事業化できる資金計画、もしくはバレーボール協会と連携した中で、もしかすると法人を立ち上げなければいけないということも念頭に置きながら、中学生だけではなく、この地域で一貫教育ができるようなバレーボールの育成システムが作れないものかと考えている。やはりその中では、いろいろな企業からも資金調達を今後、募っていくことができればよいとも考えている。

【石川委員】

バレーボールのことはよく分からないが、とても一生懸命に活動されていて、次の世代を育てていきたいという思いは非常によく分かった。

今回、ユニフォーム費と活動備品費の補助を希望している。「ミカサ製ボール」と

は、良質なボールと聞いているが、「ボール杯」とは、優勝カップのようなものか。

【提案者】

「ボール杯」とは、ボールを入れるためのカゴのことである。

【石川委員】

いつも、地域協議会で問題になることは、いわゆる制服の類に関して、本来は保護者、または保護者会といったところが負担すべきではないか、ということである。制服やユニフォームを補助しては、野球団体等、いろいろな人たちまで欲しいと言いきるのであるが、しかしこれまでも申請が通ってきている。

今回、地域活動支援事業で採択されなかった際、こういった費用はどのように対応するつもりでいるのか。

【提案者】

実は数年前にも、今回と同様にユニフォームとボールを地域活動支援事業の補助金で調達させていただいており、本当に感謝している。

今回、ボールやユニフォームの購入を急遽申請した理由として、アンダー19の 카테고리を作ったことが今年に入ってからであり、計画もなかなか立ち上げられないままであったため、お願いしたいとの思いで申請をした。

万が一、申請が採択されなかった場合には、保護者たちにお願いをすることになる。ボールやユニフォームをチーム分購入する場合には、どうしても一人あたり2万円から3万円の負担となってしまう。加えて全国大会に行こうと思えば、プラス3万円から4万円くらいの負担を保護者にお願いをするしかない。本当に一人当たり、年間でいうと10万くらいの負担をお願いしなければならないため、大変に心苦しいところも正直ある。

そのため、地域活動支援事業で採択していただければ、保護者を含めて、そういった心配をせずに今年度の活動をしていけると思っている。

【土屋委員】

質問というか、確認である。

先ほどの説明の中で、男子バレーボール部のある中学校が城東中学校一校しかないであった。その中学校ではない中学生の受け皿が上越クラブとなっているという

ことか。

【提案者】

そうである。

【神崎委員】

バレーボールに対して、すごく熱心なことはとてもよく分かった。

これは金谷区の地域活動支援事業として提案をしているが、説明を聞いていると、よそのバレーボールクラブ等と変わりはないように思う。

金谷地域の何か特色のようなものがあれば教えてほしい。

【提案者】

実際、城東中学校には金谷区の生徒も多く通っている。そして実際の活動拠点が関根学園高校ということで、当クラブから関根学園に入学する生徒が最近、非常に増えている。関根学園自体が今は金谷区のメインの学校にもなっているため、地域の活性にも繋がると思っている。

また、高田西小学校に小学生のクラブチームがある。そのチームとのタイアップをしながら、地域の社会貢献、子どもたちの貢献活動というものを計画にも記載しているが、そういったことも含めて、金谷区の事業として採択いただけるとありがたいと思っている。

【神崎委員】

金谷区の何活動か。

【提案者】

活性事業である。

【神崎委員】

具体的には何か。

【提案者】

スポーツでの活性はなかなか難しいかと思う。ただ、スポーツで活性できるのは、やはり子どもたちが元気に動いている姿であり、これを地域の人たちにもきちんと見ていただくことができれば、非常に地域の盛り上がり、もしくは、そこに住んでいる子どもたちに「金谷区でバレーボールをしたい」という思いが強くなるのでは

ないかと思っている。

実際に、前回、提案をした際にも「自分もやりたい」ということで、小学校のクラブチームに入った子どももいた。

この地域でバレーボールを含めて、運動をしたいという子どもたちをしっかりと捉えていきたいといった思いがある。

【高橋敏光委員】

提案書にユニフォームとボールの合計金額が記載されているが、細かい数字が記載されていない。単価を教えてください。

【提案者】

ユニフォームは36枚分で見積もりを取っている。18着の2セットである。

バレーボールは色の違う2色のユニフォームを作らなければならないとのルールがあるため、2セットということである。

提案書と一緒に、見積書を提出している。

【滝澤センター長】

質疑を終了する。

— 提案者退席 —

整理No.10の事業について、審査・採点を委員に依頼。

— 審査・採点シート 記入・回収 —

整理No.10「バレーボール文化の普及及び青少年健全育成事業」の審査・採点を終了。

整理No.12「金谷区飯支部の交通安全確保事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

・事業概要に基づき説明

【滝澤センター長】

提案者の説明について、質問のある委員の発言を求めるがなし。

質疑を終了する。

— 提案者退席 —

整理No.1 2の事業について、審査・採点を委員に依頼。

— 審査・採点シート 記入・回収 —

整理No.1 2「金谷区飯支部の交通安全確保事業」の審査・採点を終了。

整理No.1 3「金谷若者まちづくり参画事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

- ・事業概要に基づき説明

【滝澤センター長】

提案者の説明について、質問のある委員の発言を求める。

【土屋委員】

構成員数が「1, 000人」いるが、構成員から年会費等は徴収しているのか。

年会費を徴収していたとしても、他区でもいろいろなことをしており、他区でお金がかかるため、金谷区で提案書にある三つの内容を提案したということか。

提案内容に文句があるということではないが、以上のことを教えてほしい。

【提案者】

構成員数「1, 000人」とあるが、年会費等はいただいている。

この1, 000人の数え方であるが、「LINE@」という商業用のLINEがあり、そこに登録しているメンバー数のことを指している。

イベントごとに参加したメンバーから参加費を徴収することもある。現状としては以上のような状態である。

【石川委員】

いつも若者を元気付けるということで、敬意を表している。

まず一点。提案書の「団体等の沿革」に、平成27年7月の上越若者みらい会議設立からいくつか設立項目が記載されているが、これらの団体は一つひとつ独立しているのではないのか。

本日は、上越若者みらい会議の事業申請だと思うが、記載されている他の団体と何か関係はあるのか。

【提案者】

若い人たちの声を集めて何かかたちにしよう、ということで始まった。

その後、どんどんとメンバーが増えていき、それぞれのメンバーのやりたい志向がだんだんと細分化されてきた。

当団体の次に大きな団体が、現在、一般社団法人にもなっている「上越アクティブスポーツ協会」という団体である。

こちらは「横乗り文化」である、スケートボードやBMXといったローラースポーツの文化をより発信して環境をつくろうということで、上越ウイングマーケットでテナントを借り、スケボーパークの運営をしている。

上越若者みらい会議発信で独立しているところもあるが、まだそこまで主力のメンバーはおらず、共同でやっている団体がある状況である。

【石川委員】

上越若者みらい会議一つでもよいのではないかと思う。下に記載されているサークル団体は、少し分かりにくいと思う。

次に、提案書の3ページの「(4) 事業の内容及び実施方法」の【概要】に、「テナント立てや火起こし、釣りやキャンドル作りを通じ、自給自足の疑似体験を楽しんでもらう」とある。この程度で自給自足というのはおこがましいように思うが、それは団体の考えであるためよいと思う。

そして「金谷山公園フェス」のところでは、「金谷山公園の駐車場確保のため、出店者は上越高田インターチェンジに駐車し、バスでピストン輸送を行う」とあるが、この輸送費は「ジャンボタクシー貸切り：@9,500円×4時間×2台×3回」の22万8,000円と高額な金額のことか。

【提案者】

そうである。

アイエムタクシーと頸城観光バスから見積書を取った。イベントは3回行うため、記載の金額となった。

【石川委員】

実際、金谷山公園には、結構な広さの駐車場があると思うが、ピストン輸送は必要なのか。

【提案者】

私も結構、駐車場があると思っていたが、台数でいうと150台程度であった。昨年の来場者数は、1,000人を超えており、今年はまだ少し多い2,000人程度を見込んでいる。また、今年度は出店者数を増やす予定である。最大で100店舗を予定しているため、150台の駐車スペースはほぼ出店者で埋まってしまう可能性がある。

また、そのイベントだけではなく、ボブスレー等、一般の金谷山に遊びに来る人のためのスペースも設けなければならないため、今年度はこのような予算を付けた。

【石川委員】

もう一点。私が一番気になっている金額が、広告宣伝費の33万円である。

輸送費については、今ほどの説明で何となく分かったが、広告宣伝費として「上越タウンジャーナル等記事広告費：5万5,000円×3回」「ポスター・フライヤー制作費：5万5,000円×3回」、合計33万円と突出している。

私のような年齢になると、スマートフォンを使ってもSNSは使えないため駄目だが、若者はそういったものの専門家である。しかも、金谷区社会人サークルの登録者数が300人もおり、上越若者みらい会議の登録者数は1,000人いるのなら、この項目は必要ないのではないか。

いつも思うが、この団体は宣伝費が高すぎる。タウンジャーナルやポスター・フライヤー等、掲載、作成することはよいと思うが、少し高額であるため、広告宣伝のための事業のように思えてしまう。

なぜ、ここまで必要なのか。若者は、SNSで声掛けを行えば、集まってくると思う。情報誌やポスターに載せなければならない意味を教えてほしい。

【提案者】

確かに、33万円は高額である。

若者は、SNSで繋がっているようで、実は全然、繋がっていないと感じている。インフルエンサーのような、有名な人がSNSで発信したとしても、その人をフォローしている人にしか情報が行き渡らないことが現状である。

昨年度も同等程度の金額を申請したが、その効果もあって、フリーマーケットは大盛況であった。また、当団体の目的は、この活動を上越の全市民に伝えたい、知

ってほしい、ということである。そして、こういったイベントに対して、思いはあっても発揮する場所がなかった若者に届いて、どんどんと活性化していくとよいとの思いも込めて、「宣伝広告費」の補助を受けながら発信していくべきと考えている。

【石川委員】

タウンジャーナルやポスター・フライヤー等、見る人も少ないように思うが、趣旨は分かった。

【平良木委員】

今ほどの宣伝費に関わって、昨年度の実績報告書を確認したところ、「スカイランタン事業に関しては、かなりの広告宣伝費をかけたが思いの外、集客に苦労した」と記載されているが、宣伝の仕方の改善のようなものは、この計画にあるのか。

【提案者】

私もいろいろな媒体を利用して、2年前から活動している。

タウンジャーナルを初め、Cocola、まるごと上越、その他、各新聞社にもプレスリリースを発行しながら行っている。ヒットするところと、駄目なところを学びながら、若い人たちがインスタグラムを見ているということで、今回はインスタグラムの広告にもチャレンジしたいと思っている。提案書に細かくは記載していないが、広告宣伝費を補助いただけた際には、そういったことにもチャレンジしたいと考えている。

【高橋敏光委員】

タウンジャーナルは自分もよく見ている。

「1回」は何日間のことか。

【提案者】

インターネット記事であるため、1度掲載してもらおうと、ずっと見ることができる。

【高橋敏光委員】

3種類あるが、1回で3種類の広告記事を載せるのか。

【提案者】

今回のイベントということで、3回行う予定で、もしくはかたちを変えて掲載したいと考えている。

【高橋敏光委員】

どのくらいの期間なのか。

【提案者】

一応、永続的に載ると聞いている。

ただ、どんどんと新しい記事が出てくる。だが、検索すれば記事は出てくる。

【滝澤センター長】

時間となったため、質疑を終了する。

— 提案者退席 —

整理No.13の事業について、審査・採点を委員に依頼。

— 審査・採点シート 記入・回収 —

整理No.13「金谷若者まちづくり参画事業」の審査・採点を終了。

整理No.14「親子の『いきるチカラ』向上事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

・事業概要に基づき説明

【滝澤センター長】

提案者の説明について、質問のある委員の発言を求める。

【石川委員】

気になったこととして、実施方法の中に「乳幼児期からの性教育等について学んだり、情報交換したり」とある。乳幼児は、お乳を飲んでいるような、1歳半くらいまでのことだと思う。私のイメージでは、いわゆる水着で隠れる部分のプライベートゾーンは、とても命に関係するため大切だ、ということを教えることが最初の性教育のように感じている。だが、乳幼児期からとは、最初にどういうことを教えたいのか。

【提案者】

主に指導、話をする予定の者が当団体の代表である。代表は長年、行政で保健師

の活動をしてきた。私は詳しい話ができないが、私が考えていることでは、性教育といっても一般的に小・中学校で習っているようなことだけではなく、トイレトレーニングのように自分でトイレに排泄することができる、下着等を汚した時には自分で洗うことができる、また下着に付いた排せつ物で自分の体調が分かるため、そういったことも含めて、性教育と大きくくっっている。性教育というとインパクトがある。性教育とは言っているが、自分を大切にすること、自分のことの話を中心に話してもらっている。

もちろん、対象年齢が変われば話の内容も変わってくる。中学校くらいの年齢層の子どもたちだけではなく、赤ちゃんから大人になっても自らを大切に生きていこうとの意味合いのことである。

【石川委員】

性教育という名前が付くと、やはり小さい時から、いわゆるプライベートゾーンを触られたら「嫌だ」と言ってよい、ということが、最初の性教育の始まりだと思う。少し意味が違うようにも思う。

【提案者】

自分たちも、どのようなネーミングにすれば分かりやすいのかは模索中である。現時点ではそのように表現しているが、もっとよい表現があればよいと思っている。

【石川委員】

少し誤解があるような気がする。

次に、支出の部で講演会報償費として、講師謝金が「3,000円×20人」とあるが、この20人の講師とはどういう人たちを指すのか。

【提案者】

講師が20人いるわけではなく、講師活動をしている方である。こういった条件で講師として訪れることができるとの規定のようなものがある。規定では、20人以上を集めて、1人3,000円を講師に支払うため、それ以上の人数とお金を集めると講師が来てくれる。そのため、この20人は、参加人数のことである。

【滝澤センター長】

あくまでも、目安として示している。

【神崎委員】

目安は幾らなのか。

【難波主任】

一日6,000円である。

【神崎委員】

10倍ということか。

【石川委員】

6,000円のため、10人分ということか。10倍とはどういうことか。

【神崎委員】

一人に6万円を支払うということだと思う。

【提案者】

そうである。

一人の講師に6万円支払う。

【神崎委員】

それは、目安を大分超えているが、市としては問題ないのか。

【小林委員】

内訳の記載の仕方がよくないと思う。

【難波主任】

一人の講師に謝礼を支払うのであれば、市として適切な金額は6,000円という目安がある。

【提案者】

補助金を6万円申請しているということではなく、講師がそういった規定であるため、講師には6万円は支払いたいが、もし補助金がなかった場合、参加費が1人3,000円以上の負担となる予定である。そこには、場所代や駐車場代等がかかるため、参加者が3,000円以上を支払わなければならないが、補助金がおりました際には、場所代の補助に充てたい。また、講師謝礼は、上限3万円程度の目安ということ、事前に私たちも目を通していているため、補助金の上限以外の金額については、参加者から徴収する予定としている。そのため、参加者がもっと増えれば、一

人あたりの負担額は少なくなる予定である。人数が増えた場合のことも考えて、会場は2パターンを想定している。

【滝澤センター長】

確認である。

提案書では「報償費」ということで6万円、内訳は講師の謝金とあり、3,000円の報酬を20人に払うと受け取った。だが、一回の講習という場面に、6万円支払うということだと、市の基準では概ね6,000円という基準があるため、それに比べて少し高いことになる。どのような人が来るのかにもよるが、一般的な大学の教授の場合では6,000円としている。

また、収入の部も参加状況によって変わるとのことだが、まずもって、歳出として一回の講師代6万円が高いということを指摘させていただいている。事務局でも事前に、提案書をいただいた際に書類の確認をしたが、3,000円を延べ20人というふうに読み取った。

結果として、1回6万円という条件の中で採択するにあたって、そのままいくのか、何か条件を付けた中で「適切な金額程度にしてください」ということになるかも含めて、審査員の中で審議することとなることを理解いただきたい。

【山井副会長】

親子の「いきるチカラ」向上事業と言っているが、提案書にも記載されているように、市内には同様の子育ての会が他にもある。「森のようちえんてくてく」「上越親子劇場」等、いろいろな会がある。

そういった類似の会の活動を調べるというか、話を聞いたのか。そういった会と同じようなことができれば、という助言である。

全然知らずに事業を行うのか、知っているが違うことを行うのか、教えてほしい。

【提案者】

私は、サークルを探し求めていたが、私と子どもたちの健康についてのアドバイス等が欲しかった。それは例えば、添加物や食の安全である。また、今、一歳の子どもがいるが、妊娠、出産、産後直後はコロナ禍であり、マスクをすることで体調不良となるなどとても大変であったため、「健康に関するサークルはないのか」とこ

どもセンターで聞いてまわった時に、昔はそのようなサークルもあったが、今はないため自分で作ってはどうか、と言われたため自分で作った。

「森のようちえんてくてく」には、現在、3歳の娘が通っており、新しく先輩ママにも出会えたため、いろいろと学ばせてもらっている。そのコミュニティのママたちも、このサークルに参加してくれている。また、勉強会等もしている。

【滝澤センター長】

事務局から、先ほどの価格の基準について、Q&Aという地域活動支援事業の提案募集にあたっての疑問点等を分かりやすいように整理した資料を基に補足する。

先ほど6,000円といったが、市では各種講座の講師等の目安ということで、教養講座の場合、6,000円程度という目安を持っている。その金額については、社会通念上、適切と考えられる額を対象とするとしている。積算にあたってはいろいろな区分であり、例えば、医師や弁護士だと最も高額で2万円、教養講座で6,000円等としている。補足で、全国的に著名なスポーツ選手、文化人等を招く場合、基準の価格によりがたいときもあるかと思う。そういった場合には、その人でなければならない理由と金額の根拠を付けてもらうことをお願いしている。

提案を受けた際に事務局でも気が付かなかったが、講師がどのような人で、どういう理由で「講師謝礼6万円」だということを、この場で説明することが可能であれば、説明していただきたいと思うが、どうか。

【提案者】

金額に関しては、自分たちが提示した金額ということではない。

予定している講師は、全国各地で講演活動をしている人であり、その人が全国各地で講演をする際の料金である。

【滝澤センター長】

確認である。

招きたいと思っている講師自らが、全国各地へ出向いた際の実績額、相場というか、講師が言っている価格だということか。

【提案者】

そうである。

【滝澤センター長】

では、後付けになるが、その金額の根拠と講師としてその方でなければならない理由が必要になってくる。そういったものを今この場でなくてもよいため、後ほど提示いただくことは可能か。

【提案者】

可能である。

【小林委員】

この場で提示いただけない場合、審査はどうなるのか。

【滝澤センター長】

審査・採択は明日の夕方からになるため、明日の午後5時15分までに、南部まちづくりセンターに先ほど言った根拠の資料を提示いただきたい。

【提案者】

資料とはどういったかたちになるか。

【滝澤センター長】

何か理由があってその講師にされたと思うが、その理由をまとめてほしい。そして、その根拠となる資料として、見積書やパンフレット等、講師料の記載があるものである。

【提案者】

承知した。

【山井副会長】

根拠の資料が提出されない場合には、基準の6,000円ということになるのか。

【滝澤センター長】

その講師の必要性を証明いただかなければ、先ほども説明したように、市の基準を目安にさせていただくことになる。

【山井副会長】

6万円と提示している講師のため、6,000円の謝礼では来てくれないと思う。

【滝澤センター長】

その点を理解いただくことと、先ほどの資料の手配等をお願いしたい。

【土屋委員】

今ほどの講演会の内容にも付随するが、根本的なことの確認である。

会場の使用料として、「からころ堂」とあるが、私はその会場を知らないため、場所はどこにあって、どういう会場なのか教えてほしい。

こういった講演会だと、例えば、市民プラザ等を利用することが多いと思う。金谷区の地域活動支援事業であるため金谷区内にあると思う。

また団体の代表者の住所が金谷区であるため、金谷区に提案をしたのか、それとも講演会の会場が金谷区にあるため、金谷区に提案をしたのか教えてほしい。

要は、「からころ堂」がどこにあるのか分からないため、教えてほしい。

【提案者】

正善寺である。

先ほど、私の子どもが「森のようちえんてくてく」に通っていると話したが、その幼稚園に通いたくて春日山町に引っ越してきた。この地域は自然が豊かで大好きであるため、今後も暮らしていけたらよいと思っている。

【滝澤センター長】

質疑を終了する。

— 提案者退席 —

整理No.14の事業について、審査・採点を委員に依頼。

— 審査・採点シート 記入・回収 —

整理No.14「親子の『いきる力』向上事業」の審査・採点を終了。

これで本日予定していた11件の審査が終了した。残りの3件については、明日実施する。

これより本日の会議の進行を会長に戻す。

【村田会長】

以上で次第3議題（1）「令和4年度地域活動支援事業について」を終了する。

— 事務連絡 —

【村田会長】

次第4「事務連絡」について、事務局に説明を求める。

【滝澤センター長】

- ・今後の日程

令和4年度第3回地域協議会

5月26日（木）午後6時30分から 福祉交流プラザ

- ・内 容：令和4年度地域活動支援事業の審査・採択の続き
諮問事項 金谷地区公民館の移転について（答申）
地域自治推進プロジェクト及び令和4年度の地域協議会の取組等について
- ・当日配布資料：（参考）吉川区地域協議会の意見書

【村田会長】

事務局の説明について、質疑を求めるがなし。

本日の議題は全て終了した。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831（直通）

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。